

# 医療法人社団青空会大町病院 平成 27 年度事業方針

## はじめに

- 東日本大震災と原発事故から 4 年が経過した現在においても、除染や生活圏の復興整備が計画通りに進まず、より住民の帰還を促すような「安心・安全」の確保は、依然として不透明な状況にある。
- 一方、市内各地区で復興住宅や民間賃貸住宅の整備が進められ、当院の近接地にも復興公営住宅（150 世帯入居予定）が新設されるなど、地域別の居住人口に変動が見込まれるものの、地域全体での二次医療供給体制の在り方や通院手段としての公共交通体系の整備などについては不透明のままになっている。
- 反面、診療を行っている医療機関では、医師や看護職員等の医療スタッフの確保が容易に進まないことに加え、産科医の減少や勤務医の退職などにより診療の休止を余儀なくされるなど、救急医療をはじめとする地域医療の供給体制は崩壊の危機に直面している。
- このような中であって、医療法人社団青空会大町病院は、地域医療を担う二次医療機関としての使命に基づき、震災後、いち早く外来・入院の診療を再開し、被災者や地域住民の支援に当たってきたことを誇りとして、厳しい医療環境に埋没することなく、持てる医療資源を最大化して効率的運用を行ない、地域の基幹病院として役割を最大限に発揮することに努めなければならない。
- 以上のことを踏まえ、私たちは「質の高い医療の提供により地域医療に貢献する」ことを基本理念に、次に掲げる基本方針を踏まえて全職員が一丸となって行動することを確認する。

## 基本方針

### I 患者から信頼される安全、安心で良質な医療の提供

地域医療のニーズを的確に把握し、医療安全対策を積極的に推進するとともに、倫理審査委員会やサービス向上委員会などの院内会議の効果的活用を図りながら、コンプライアンス<sup>※1</sup>の重視とインフォームド・コンセント<sup>※2</sup>の徹底を図り、患者の立場に立つホスピタリティ<sup>※3</sup>の心で、患者が求める安全・安心で良質な医療の提供に努める。

倫理審査委員会等を活用し、人権の尊重とより適正な医療環境を構築する。

分かりやすく説明責任を果たし、患者との信頼関係を構築する。

内視鏡センターなどの特徴的な専門治療の拡充と専門医の育成を図る。

それぞれの立場で、スキルアップとホスピタリティの向上を目指す。

患者給食提供の快適化を図り、病院のクオリティを高める。

退院後アンケートを活用し、患者満足度の向上を図る。

#### <ホスピタリティにつながる段階的なサービスと目標>

□第1段階のサービス（当然しなければならない、当たり前のサービス）

□第2段階のサービス（「気配り」が含まれ、良い印象を与える患者の満足度を高めるサービス）

□第3段階のサービス（患者の立場になって、患者がして欲しいことを真剣に考え、患者が求めていることを超えたサービス）

【目標】 自分の家族や親友に接する以上の気持ちを込めて、患者が最善と思える第3段階のサービスを目指す。

※1 コンプライアンス (compliance) は『法令遵守』と訳され、一般に「悪い事をしてはいけない、法律は守らなければならない」と解釈される。しかし、本来のコンプライアンスはこれに留まらず、企業が健全で適正な活動を行うために、法遵守はもちろん社内規程やルールにより、リスクマネジメントを行い、模範的行動さらに理想的行動へと繋げることを意味する。

※2 インフォームド・コンセントは、日本語で「説明と同意」と訳される。

※3 「思いやり」、「心からのもてなし」によるサービスの提供と訳される。

## II 安定的な経営基盤の確立

変化する医療環境に対応し、安定的な経営基盤を確立するため、院内に「原価計算<sup>※4</sup>」の考え方による「費用対効果」測定を定着させて職員の経営参画意識を高めるとともに、PDCAサイクル<sup>※5</sup>を通して事業の効率化と着実な収益の向上に努め、社会保障・税一体改革に伴う病床機能の再編などの長期的視点に立った経営安定化対策を推進する。

「原価計算」手法を導入して、適正な経営管理に努めることに着手する。

「PDCAサイクル」を通して、継続的に業務改善行なう。

【Plan（計画）】⇒【Do（実施・実行）】⇒【Check（点検・評価）】⇒  
【Action（処置・改善）】

「1 職員 1 提案制度」の実施により、上位の施設基準獲得を目指す。

病床機能の再編等の医療改革を見据えた病院の在り方を取りまとめる。

復興補助金や損害賠償終了後の医業収支均衡の基盤を創造する。

## III よい良い療養環境の整備と診療体制の確保

診療機能の高度化、患者ニーズに沿った医療環境の改善・整備を図るため、医師の業務量軽減による十分な診療時間の確保と負担軽減に努めるとともに、良好な患者接遇に努め、患者の要望に応え得る体制の確保を図る。

また、安全・安心な医療環境を確保するため、行政の指導のもとに「一般災害対策マニュアル」や「原子力災害等避難マニュアル」の策定を進めるとともに、災害等緊急時における業務継続計画<sup>※6</sup>を策定する。

医療スタッフの必要数を確保し、適正な病床数の稼動に努める。

患者数に見合った常勤医師を確保するとともに、診療予約制導入を検討する。

時代の要請に応えうる電子カルテシステム等の導入を検討し、選択する。

医療クレークを増員し、医師の負担軽減を図る。

一般災害対策マニュアルと原子力災害避難計画の策定に着手する。

災害等不測の事態に備えるための業務継続計画を策定する。

※4 利益の追求、予算管理などを目的に、製造（医療）原価（材料費＋労務費＋経費）を算出し、得られた原価情報を「業績管理・事業計画・採算計画」などに活用すること。

※5 事業活動における業務管理や品質管理などの管理業務を円滑に進めるための手法の一つ。

※6 災害や事故などの不測の事態に備え、業務の中断を可及的・速やかに復旧・再開できるようにするための行動計画をいう。

## IV 職員の教育研修と人材の育成・確保

医療の高度化、複雑化に対応できる要員を育成するため、看護部・診療技術部・事務部の部門毎に行なう各種研修等への積極的参加・受講を支援するとともに、上位の施設基準獲得につながる資格等の取得を目指す。

また、地域医療の提供体制を確立するため、看護職員やコメディカルスタッフの確保を重点的に推進するとともに、職員の待遇改善等を図りながら働き甲斐のある勤務環境の改善・整備に努める。

さらに、医師と看護職員がより連携した診療体制と病院運営体制を構築するため、新たに看護職員たる者を副院長に登用することを具体的に検討し、組織の活性化を図る。

院内研修会や各種委員会を定期開催し、研修成果や協議結果を業務に活かす。

部門ごとに勉強会を開催してスキルアップを図り、エキスパート職員を目指す。

看護職員の技術向上に資するため、認定看護師等の育成を図る。

資格取得や技術習得を促進させるため、必要な支援や助成を行なう。

組織の活性化を図るため、看護職員を副院長に登用することを具体的に検討する。

成果

### <到達目標>

医療法人社団青空会大町病院は、安定的経営基盤の下に、すべての職員が連携協力してその役割を最大限発揮するとともに、患者さんが最善と思えるホスピタリティなサービス提供に徹しながら、チーム医療による「安全・安心で良質な医療」をすべての患者さんに提供することにより、地域の皆さんの信頼を得て、地域医療の拡充・発展に貢献しています。